

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性産業・性団体・性風俗業・性ボランティア調査研究報告コホート

思想・宗教・ユートピア団体における
女性の性的集団生活

まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年5月2日

最終更新：2020年7月28日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

目次

序. 女性の永遠の憧れ ～ ユートピアでの暮らし ～

- (1) 思想・宗教・ユートピア団体の女性たちとの交流史
- (2) 女性の性について独特な教義が見られないユートピア思想集団・宗教団体の特徴
— 資本主義と共産主義の根本的相違 —

1. 私たちが関わった（半ば思想的基盤を委ねられた）「女性だけのユートピア」計画

- (1) シェアハウス型女子寮からの依頼
- (2) 女性の性被害・性依存・性症状研究会（女「性」研）と日本 PSAS 協会の失敗
- (3) 私たちの構想と現在の女性たちの状況

2. 家庭生活という閉鎖空間（一つの宗教集団）における女性たち

- (1) 女性からのご相談事例
 - (ア) 女性からのご相談事例 1
 - (イ) 女性からのご相談事例 2
 - (ウ) 女性からのご相談事例 3

- (2) ウォッチャー調査報告

3. 農事組合法人 幸福会ヤマギシ会（通称：「ヤマギシ会」、「ヤマギシ」、「ヤマギシズム」）の女性たち

- (1) 女性からのご相談事例
 - (ア) 女性からのご相談事例 1
 - (イ) 女性からのご相談事例 2
 - (ウ) 女性からのご相談事例 3（ヤマギシのりえちゃんへ）

- (2) ウォッチャー調査報告

- (ア) アーミッシュや一燈園、「八日目の蟬」との類似と相違
- (イ) 女性器の公有と結婚調整・生産部門

4. 一般財団法人 懺悔奉仕光泉林（通称：「一燈園」）の女性たち

- (1) 女性からのご相談事例
 - (ア) 女性からのご相談事例 1（一燈園の女性）
 - (イ) 女性からのご相談事例 2（一燈園の女性）
 - (ウ) 女性からのご相談事例 3（一燈園の女性）
 - (エ) 女性からのご相談事例 4（一燈園の周辺地域の女性）

- (2) ウォッチャー調査報告

- (ア) 一燈園との奇妙な縁
- (イ) 「お宅のトイレを掃除させて下さい」
- (ウ) 一燈園の懺悔（一燈園小学校・中学校・高等学校の教育）と女性器の懺悔
- (エ) 女性の排泄・トイレと「恥」の心

(オ) スカトロロジーと一燈園の女性

5. キリスト教福音宣教会 (Christian Gospel Mission、通称:「摂理」) の女性からのご相談

(1) 女性からのご相談事例

(ア) 女性からのご相談事例 1

(イ) 女性からのご相談事例 2

(ウ) 女性からのご相談事例 3

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 朝鮮半島系キリスト教団体の典型

(イ) 女子学生による勧誘網

6. この項、要閲覧申込

7. ラエリアン・ムーブメント (Raëlian movement)、クリトレイド (Clitoraid) の女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(ア) 女性からのご相談事例 1

(イ) 女性からのご相談事例 2

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 日本で拡大するニューエイジ宗教

(イ) 有名理系女子大生らによる勧誘

8. 類グループ (株式会社 類設計室、類広宣社、類塾、類農園、類地所) の女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(ア) 女性からのご相談事例 1

(イ) 女性からのご相談事例 2

(ウ) 女性からのご相談事例 3

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 「るいネット」の皮肉

(イ) 類グループが掲げる「性・婚姻・家族」

参考文献

序. 女性の永遠の憧れ ～ ユートピアでの暮らし ～

(1) 思想・宗教・ユートピア団体の女性たちとの交流史

私たちが様々な思想・宗教団体やユートピア（を自称する）団体に所属する女性たちから性生活についての相談や告白を受けるようになったのは、2003 年前後からのことである。とりわけ、心の中にある理想郷の姿を期待して団体に入ったものの、理想とのギャップに傷つき、夢破れて、私たちのもとを訪れた女性が多い。

要するに、そんなユートピアは地上に存在せず、ただ今の苦しい日本社会における個人の小さな幸せや楽しみを、ささやかなユートピアと思うほかないのである。私たちが女性たちにまず言うことは、いつもそのことである。

それぞれの思想・宗教・ユートピア団体は、もちろん横のつながりのない（むしろ争いばかりしている）別団体だが、女性たちから集団での性生活についての相談や告白を受けるようになった時期は重なっている。これには理由があって、私たちは思想・宗教・ユートピア団体のウォッチャー活動を始めて久しく、とりわけその団体が標榜する女性の性についての主義主張と、所属女性たち自身の性生活・性意識のウォッチャーなのである。

私たちのもとには、私たち以外にもウォッチャーと呼ばれる多くの女性スタッフがあり、私たちはこれらの女性たちからの報告をまとめる責任も負っている。これらの女性たちも、女現研のスタッフである。

他にも、私たちの職場のビルに暴力団事務所が介入・入居していた（注：現在は互いに別のビルに移転）こともあって、暴力団ウォッチングをするなど、私たちは色々な集団のウォッチャーであるが、それは余談として、ともかく、昨今やたらと元気な、しかし悲しい事態も多々見られる女性たちの性について、専ら取り上げたい。

私たちは女性の性生活ウォッチャーであるから、こういった思想・宗教・ユートピア団体の女性たちをその団体から救出するという活動にはあまり関わらないと決めている。団体への潜入ルートを持っていても、そう決めている。

そもそも救出とか救済といった行動も、一歩間違えば今度はこちら側が教祖になる。「救出・救済は正しい」という言説もまた、一つの思想であり、宗教である。「宗教団体に洗脳されるか、社会（救済者）に洗脳されるか」。あるのはその二択のみである。だから私たちは、簡単に救出しない。人は、一般社会（常識人）の側に身を置く自分のことを神の救済行動の代理人だと思った時点で、道を誤るのであり、すでに自らがカルト教祖となるのである。

例えば、今でも憲法違反だという人がいるほどの大問題である女性専用車両の設置については、これ自体がカルト宗教の「女性の隔離は女性への尊重である」という口実じみた教えとどう違うかと言われても、原理的に区別のしようがない。そもそも、日本の女性専用車両自体が、長年国土交通大臣を輩出してきた公明党の、そしてその最大の支持母体で

ある創価学会の悲願だったのであり、一つの宗教思想にすぎないのである。女性専用車両設置後に痴漢被害件数が減少したというデータは存在しない。しかし今や、学会員でもない多くの一般国民女性が、自ら進んで移動型隔離施設「女性専用車両」に乗っているではないか。

ところで、この著作の文章は全て私たちスタッフが書いているが、もちろん女性たちからのご相談・ご報告の引用（全て女性たちの許可を得たもの）も多々含まれている。むしろ、そちらのほうが女性たちの生の声、心からの叫びなのであり、私たちにとっても大切な宝物である。

(2) 女性の性について独特な教義が見られないユートピア思想集団・宗教団体の特徴

— 資本主義と共産主義の根本的相違 —

世の中には、大多数の国民の常識とはかけ離れた（と思われる）思想を有する共同体や宗教団体が多々存在する。とは言っても、私たち自身は「社会人の常識もまた、一つの宗教が巨大化したものである」と考える人間であることは先に述べた。身近なところだけで見ても、「相撲の土俵の上に土足で上がってはいけない」という常識は、何も知らない外国人から見れば、日本人にしか通用しない文化である。但し、ほとんどの無宗教の日本人は、自分が属する社会の価値観を良識だと思って過ごし、そうでない集団をカルト宗教と呼ぶなどして区別している。

例えば、幸福の科学という宗教団体がある。この団体が信奉する大川隆法氏（エル・カンターレ本体ないしその地球上の権化であるとされる）は、一般社会から見ればただのおじさんだろう。私たちにとってもそうである。ところが、幸福の科学は、女性の性というテーマに絞ってみれば、それほどカルト的な言説は見られない。

実は、女性の性についての独特な教義、とりわけ「女性器の解放（開放）やフリーセックス」を掲げている宗教集団には、人間行動のうち農業生産を重視し、過度な工業化や AI 化に警鐘を鳴らして、原始共産主義体制を敷いている集団が多いのである。幸福の科学が、反共・親資本主義であり、政治的には右派思想、家系・家族単位重視の団体であることは、比較的よく知られている。一方、私たちがここに取り上げる団体は、原始共産主義的ユートピアの建設を最終目的とする団体が多いのである。当然彼らは、組織的に共産党や社民党を支持しているが、最近は野党の離合集散が激しいこともあり、自民党以外なら何でも OK、といった態度をとっている。

マルクスも一時期触れたことだが、私有財産を否定する原始共産主義思想では、生命を生み出す根源、つまりは女性器や子宮をも公有すべきかどうかという、「女性器や子宮の公有・共有」の検討に必ず突き当たる。女性器の公有を採用した団体は、ただの性的倒錯集団と見分けがつかず、実態はそれらと同じものとなる。

今では国民のおよそ半数が加入する生活協同組合（生協、コープ、CO・OP）や、全日

本農民組合連合会（全日農）は、賀川豊彦らキリスト教知識層による 1920 年代の貧困者救済運動・農民組合運動が起源だが、この賀川豊彦をはじめとするキリスト教徒の主要メンバーらは、強姦被害女性に対する差別運動や、優生思想に基づくハンセン病患者差別運動を行っていた。賀川らは、売春婦のみならず、強姦されるような女性にも先天的欠陥があると考え、積極的に侮蔑発言を展開し、とりわけ米兵に強姦された女子たちを自ら悪に接近した者として差別した。賀川らは、このような女性たちの性器が、本来公有されるべき健康な女性たちの性器に混じって公有されると、社会全体が墮落すると考えたのである。彼らは決して、女性器の公有思想そのものが異常や墮落だとは考えない。

けれども、食糧やインフラが一部の人間だけに独占・所有されず、全ての人に行き渡り、飢餓を生じない理想社会を築くべきだという議論と、女性器が一部の人間（パートナーや配偶者）だけに（交際概念や書面契約によって）独占・所有される恋愛や結婚という事象の方が女性への性暴力であり束縛であるという議論とが、別物であると私たちが当たり前のように考えるならば、それこそがまた、一つの異常性を孕んでいると言えるだろう。

こういうことは、戦後の日本の教育では絶対に教えられてこなかったし、これからもそうだろう。こういった女性器公有思想や性被害女性への差別運動は、農業協同組合（農協、JA）、農事組合法人、社民党など、キリスト教知識層が関わってきた主要団体にも当然潜り込んだ。以下に挙げるヤマギシ会も、農事組合法人として一部の組織内に女性器公有の原始共産制を敷く集団である。

一方、いわゆる極左暴力集団（革マル派、中核派、革労協など）には、女性器の公有思想のような特殊思想は見られない場合が多い。但し、今現在も、これらの集団の中心人物は女子学生である。連合赤軍や日本赤軍における女子学生の中心的・母性的役割を思い起こしてみればいい（永田洋子、重信房子ら）。女性が思いつく暴力思想は、暴力革命によるユートピア建設の要諦であり続けているのである。とりわけ、女性器が秘めた魔力と云ってよい破壊力は、共産主義思想において、いつでも最強の武器の一つであり続けているのである。

良くも悪くも、多くの女性にとって性についての相談相手という立場に長年立たされている私たちとしては、女性の性について独特の教義を有している原始共産主義的な宗教団体を中心に取り上げることにする。

1. 私たちが関わった（半ば思想的基盤を委ねられた）「女性だけのユートピア」計画

(1) シェアハウス型女子寮からの依頼

当初私たちのもとには、女性個人からの性についての相談ばかりが寄せられ、私たちのほうからも個別に、可能な限り丁寧に対応していた。ところがそのうち、各女性が入居

する女子寮、女子シェアハウス、精神障害女性施設などに私たちの活動（自ら進んで起こした活動というより、女性たちが私たちをそういう道に進ませたとしか言いようがないのだが）が知られるようになり、それら女性施設（寮母、女性スタッフ、入居女性代表、あるいは入居女性たち）からまとまった性についての相談、というよりは、施設全体の思想的基礎（特に性生活のあり方）の構築のご依頼を頂くようになった。

初めは無論迷いに迷ったが、こういう依頼を受けるケースも世に少なからう、女性たちの役に立てるならばと、引き受けることにした。しかしながら、予想通り、どの女性施設も、女性ばかりで過ごしているうちに、やや閉鎖的な宗教施設のようになっていた。

その中でも私たちが関心を持ち、また、私たちが関わる意義がある（まだ健康な団体であって、修正・自浄能力がある）と感じたのが、女性の性被害・性依存・性症状研究会（女「性」研）と日本 PSAS 協会である。日本 PSAS 協会は、のちに女「性」研の内部グループとなった。この女「性」研が、今の女現研の母体の一つなのであるが、女「性」研は以前より女子寮を所有・運営していた。この寮にも私たちは何度もお邪魔してきたのであり、今では私たちの連携施設となったのである。

私たちがこの団体に意義を感じたのは、はじめに宗教思想ありきの団体ではなく、性被害や性依存症、女性の特殊身体症状、PGAD（PSAS の新たな名称）のような性器神経症を実際に抱えて苦しむ女性たちが性とどう向き合うかを医学的に（西洋医学と東洋医学の両面から）議論していた団体だからである。この団体の成果（性器神経症などの解説や、寮内での性生活の解説）は、私たちが編集を引き継ぎ、掲載しているので、ご覧いただきたい。

(2) 女性の性被害・性依存・性症状研究会（女「性」研）と日本 PSAS 協会の失敗

しかし実は、女「性」研と日本 PSAS 協会は、現在の団体となるまでに、幹部女性陣営が急進左派の女性たち（女性器解放論者の NPO の女性や AV 女優、風俗嬢、ヤマガシ会の女性、ラエリアン・ムーブメントの女性など）に乗っ取られる形で、何度も失敗している。ついには、女「性」研や日本 PSAS 協会の名もなくなってしまった。

組織の立て直しを依頼された私たちだが、私たちはその陰の精神的支柱ではあり得ても、実際の細かな運営方針は女性たち自身が決めればよいと考えていたので、相変わらず傍観的立場をとってしまった。それが良かったか悪かったかはいまだに分からないが、やや申し訳ないことをしたと思う。

(3) 私たちの構想と現在の女性たちの状況

私たちは現在も、この後継のシェアハウス型女子寮に関わっている。前述のように、思想的基盤の多くは確かに私たちが作ったが、当初は物理的に寮の運営に介入することはな

く、単に呼ばれてお邪魔するのみであることが多かった。

私たちの構想は、私たち自身はあくまでも、女性たちの性被害、性依存、性症状（とりわけ、精神状態と密接に関わる心身症）を淡々と解説することに徹し、それに伴って生じる彼女たちの性自認や性指向の変容（男性恐怖からレズビアンとなるなど）については否定・介入しないというものであった。つまり、女性施設に無思想・無宗教のみを適用し、あとは強制的な方針を設けない、ということを中心としたのである。

だから私たちは、彼女たちがこの女子寮において、学習施設の空気（私たちの思想的色合い）を第二義的に見て、いわばレズビアン施設としての運営方針に変えたなら、それでもよいという姿勢で、やや傍観気味に見てきたのである。

実際に今現在、この女子寮は、同性愛的女性ユートピア施設としての色合いを帯びるに至っている。これをレズビアン趣味の施設と見ればそうであるし、宗教と見ればそうであるし、単に女子寮の中で同性愛が生じたと見ればそうである。いずれにしても、性被害女性、性依存女性、性症状の女性たちが仲良く暮らしているという点では、私たちは安心して見ている。

ところで最近、この女子寮と私たち女現研との間で話し合いがあり、多くの女性スタッフが両方の幹部を務めることになった。現在は、寮からの要望で、女現研のスタッフのおよそ半数は寮のスタッフになっている。大変に喜ばしいことである。今後は私たちとしても、両方の女性たちからの情報がスムーズに得られるだろう。

2. 家庭生活という閉鎖空間（一つの宗教集団）における女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1

「わたしのお母さんがわたしの体の大切な部分の写真を、何かの宗教用にネット販売していることがわかりました。助けていただけませんか？」

(イ) 女性からのご相談事例 2

「わたしの母と姉は、わたしが元気になる儀式として、わたしの性的なところをなめたり、尿を天に捧げる儀式をしています。わたしのリストカットなどは、そのような生活の中で頭が麻痺したことから、始めた行為です。」

(ウ) 女性からのご相談事例 3

「私の妹が、全裸で畳を歩くおかしなまじない集団に入って、ご縁があったと喜んでいますが、まだ私と同居していますが、家の中でも全裸でまじないの儀式をしています。相談にのっていただきたいです。」

(2) ウォッチャー調査報告

家庭生活における性的宗教儀式被害の相談は、いつになれば無くなるのだろうか。無くなることはないのだろう。

このような相談については、これ以降に論じる団体における性的儀式とは異なり、公のものではないから、女現研としても個別に、より慎重に、秘密裏に対応している。

しかしながら、何しろ件数があまりに多いため、全ての家庭の思想を理解し、対応しきすることは、不可能である。戦後の核家族化が、各家庭の性的思想や性的儀式をいっそう孤立化させ、独特で奇怪なものに変貌させているのが現状である。

3. 農事組合法人 幸福会ヤマギシ会 (通称:「ヤマギシ会」、「ヤマギシ」、「ヤマギシズム」)の女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1

「私はあるとき、大学の友人に誘われて、世間の問題や人間関係から離れて幸福になるための勉強会なるものに参加しました。それは、だんだんと“特講 (特別講習研鑽会)”と呼ばれる会だとわかってきました。私と誘われた友人たちは、ここに身を置けば幸福になると確信し、全財産を預けて、日本の中に一つの国家のようなものを形成している村に暮らすことになりました。これは、ヤマギシ会という団体で、私の生活場所も含めて、各地域はヤマギシズム社会実顕地と呼ばれています。家、田畑、農作業場、工場、建築、出版など、一通りの施設はそろっているので、基本は一生外に出なくても食べてはいけます。私がここを去ったのは、友人たちから引き離され、身体検査のあと生産部という部署に入って数年後のことです。生産部は、農作物だけでなく、子どもの生産、つまりセックスもする部署で、相手はよく交換されます。私にあてがわれた男性の数も、かなりの数になりました。性行為というよりは、ただただ機械的に自分の性器を提供し、無表情で腰を振っ

て、胎児生産をすることに徹する感じです。私も数人の子たちを産みました。このような子たちは、優生人種、ヤマギシズム指導者として教育されます。それは、自分で言うのも変ですが、私など一部の女性が優生的な性器・子宮を持つとされ、そこから生まれた子たちだからです。あるとき、外からの情報で、多くの国民が一人の男性と一人の女性とが対になる家庭を営んでおり、それが普通であり、ヤマギシ会の多くの夫婦でさえそうで、私たちの部署を知らない知り、愕然としました。友人たちも私のような一部の女性の状況を知りませんでした。ただ、ヤマギシ会の夫婦は、あってないようなもので、実際は夫婦どうしが会える機会はほとんど（場合によっては一生）なく、一方で一部ではスワッピング（夫婦交換）が行われていて、私の相手だった男性たちもほとんどが既婚者です。初めから外にいて、誰かを普通に好きになってみたかったと思います。でも、もう後の祭りという感じで、ボロボロになった体を鏡で見ながらなんとか生きている状態です。」

(イ) 女性からのご相談事例 2

「わたしは、ヤマギシズム学園で育ったものです。親や兄弟は外の世界で暮らしていて、わたしだけが学園に入れられました。女性全員というわけではありませんが、わたしはたまたまヤマギシズム社会実顕地の農夫の人たちの性処理をする係のようになり、家族はそれを知りません。ヤマギシズムでは、腹が立つ気持ちが起きないことを生活や教育の基礎としており、腹が立ったことを報告しても、なぜ腹が立ったのですか、なぜ腹が立ったのですか、と延々と返答されます（これは学園の教育だけでなく、特講や農作業などでも、そのような課題に耐え、考え、腹が立たなくなるまで特訓をします）。性処理労働についても、わたしは嫌に思わない、腹を立てないことを心がけてきました。わいせつ行為や強姦をされて反抗しても、なぜ腹が立ったのですかと言われ、それもそうだなと思い、そのうち自分でも腹が立つことはなくなりました。性労働において、特に心の動きがないということに、自分で慣れてきました。今も心の麻痺状態は続いていると思います。今は社会復帰はしましたが、過去の経験のトラウマがあり、結婚はできないでいます。」



《ヤマギシズム学園高等部出発式》YouTube



高田かや『さよなら、カルト村。思春期から村を出るまで』(文藝春秋、2017) より

(ウ) 女性からのご相談事例 3 (ヤマギシのりえちゃんへ)

「カルトに傷ついたあなたへ」内

<http://www.geocities.jp/recoverycult2005/yamagishi.html>

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) アーミッシュや一燈園、「八日目の蟬」との類似と相違

私たちがヤマギシ会の女性たち、そして脱会者の女性たちから相談を受けるようになってから、もう十年以上が経つ。

ヤマギシ会も、他の思想・宗教団体に異ならず、少子高齢化のために勢いや規模が縮小しつつあるが、それでも今も(諸説あるが)1,500~2,000人がヤマギシズム社会実蹟地で集団生活をし、ヤマギシズム学園卒業生や社会実蹟地外の生活者50,000~60,000人、脱会者、外部関係者、また世界各地に展開する支部の住民と関係者をも含めると数十万人の人間がこの団体に関わってきたことになる。

農民や主婦・親子・家族のみならず、会社員や大学生、はたまた有名大学の大学教授なども多数入会している。他の日本の宗教団体と同じく、韓国人、在日朝鮮人、欧米人もいるが、ほとんどは日本人である。宗教学者の島田裕巳も、当初はヤマギシ会への潜入調査を目的として入り込んだところ、その思想への強い共鳴から、一時期は身を置いている。

この規模は、後述の一燈園などよりは圧倒的に大規模なものである。何より、高速道路を迂回させるほどの広大な田畑・敷地を全国や海外(スイス、韓国など)に所有しており、

外見上はいっそう巨大な宗教集団に映る。しかし、日本法上は、宗教法人ではなく農事組合法人の形をとっている。

創始者は山岸巳代蔵。農業・牧畜を主体とする原始共産主義ユートピアを掲げている点は、アメリカのドイツ系メノナイト集団「アーミッシュ」や、イスラエルの「キブツ」に似ている。表向きは、昔ながらのおじいちゃん・おばあちゃん（ヤマギシでは、高齢者は「老蘇」として親しまれる）から孫の世代までが笑顔で一緒に農作業をしている写真ばかりが目に入る。子どもたちや大学生たちが、「僕はトマト班になった」、「私はナス班よ」と、農作業を楽しんでいる写真や映像が大々的に宣伝されている。ネット上の情報は、ほとんどがこういったものだ。しかし、1959年の山岸会事件をはじめ、多くの騒動を引き起こしてきた集団であることを忘れるわけにはいかない。一部の急進派は、今も「世界急進 Z 革命」を掲げている。

私有財産は否定され、経済的な心配は無用と謳われている。ここに暮らす老若男女は全財産をヤマギシ会に捧げ、食糧・家具・農具・文具・衣服・下着など全てのものは配給されたものである。また、「契約書面」のほか、「身体と精神の全部をヤマギシ会に提供すること」についても、随時確約が求められる。脱会時には、預けた財産は全くまたはほとんど戻ってこないのが基本である。

いつも私たちが思うに、このような団体は、そっと静かに運営していれば、周りには何の被害もないというものだ。その実態が刑法や民法に違反していなければよいのだ。実際、多くの特講参加者、新参者、一般会員の多くは、そのような生活を送っていると信じている。しかし、アーミッシュ内で、事実上は男性首長と若い女性住民たちから成る（しかも、のちのちは性被害を受けた女性が逃げ出すような）性的結束集落が生じてきたように、ヤマギシ会の女性たち（会員や脱会者）からの相談は、ヤマギシ会も例外ではなく性的逸脱集団の側面を持つ（組織内部に性的逸脱集団が意図して組織されている）ことを物語っている。



一燈園やアーミッシュとの違いは、成人と子どもの絶対的隔離の有無である。ヤマギシ会では、子どもは実の両親と月に数回しか会ってはいけない。夫婦でさえ会う機会に限られている。子どもは直接的にヤマギシ会の教えを受けするため、高校生や大学生にもなれば、親以上にヤマギシズム人間となっているケースも多い。

「私の獣医人生」(ヤマギシ会への心酔から脱会までの記録)
<https://www.kirara-vet.com/novel/>

《映画「アヒルの子」》

また、ヤマギシ会に子どものみを預け、親や親族はヤマギシ会とは無縁の生活を送るケースも極めて多い。ドキュメンタリー映画『アヒルの子』も、幼少期からヤマギシ会で過ごした女性の心理を描いている。中には、子どもを入れた後からヤマギシ会の思想を知り、慌てて子どもを救出しようとした頃には、その子はすっかりヤマギシズムに染まっていたという事例も多い。

角田光代の小説「八日目の蝉」にも類似の女性集団が登場することもあり、ヤマギシ会脱会者たちはヤマギシ会をこれに喩えることが多い。唯一の違いとは、ヤマギシ会は、原始共産主義社会を、空想にとどめず、地上に実現してしまったことにほかならない。

(イ) 女性器の公有と結婚調整・生産部門

そして、原始共産制というからには、私有財産は絶対的に許されず、マルクスも一時期は考えたように、「女性の公有・共有」、「女性器・子宮の公有・共有」ということが必ず問題になる。ヤマギシ会は、高校女子・大学女子から30代後半までの女性の性器や子宮が(少なくとも一部の内部組織においては)公有されている典型的団体であると言える。何より、組織内部で性労働(ここで述べる)に従事した経験のある(現・元)ヤマギシ女性たちからの報告を見ていると、「女性器・子宮の無所有」、つまり「自らの性器・子宮は自らの私有物ではなく、共有財産である」という感覚や、「自らの身体の公有意識を極限まで高めることで、女性の急進Z革命が達成される」という目的意識が極めて強固である。

この女性器公有・共有思想は、特講参加者、新参加者ばかりか一般会員のほとんどにも何ら共有されていないが、幹部男性・女性と、「公有・共有される性器」の持ち主である一部の選ばれし女性たちを中心に見られる。ヤマギシズム学園を修了した若年女性は、(本人が後述の生産部に抜擢され、その思想が教育されるかどうかにかかわらず、)必ず一度はその思想の対象となっていると理解・自覚することが望ましいと、私たちは考える。

もちろん、このような思想を会の組織自らが外部に発信することなどないため、ほとんどが「共有女性」ご本人たちからの実体験の報告のおかげで、知ることができるものである。私たちも、若年女性ウォッチャーのメンバー(AV女優、性風俗嬢)があえて参画し、後述の生産部女性に選抜されるまでは、知り得なかったことである。しかし、特講参加後、正式に入会を決めた人なら、ヤマギシズム調整機関が発行する「契約書類」を取り交わす際、全財産の提供ばかりでなく「身体と精神の提供」をも声に出して読むよう言われたことが記憶にあるはずで、(この段階でなお参画に違和感を覚えて逡巡する人であれば、)この契約内容からその後の若年女性たちの運命を察することもできなくはないだろう。

後述のように、一燈園は「懺悔思想」を持つがために、幹部がメンバー女性たちにマインドコントロールを施さずとも、女性たち自らが「私の女性性・女性器は懺悔すべきケガレの存在」として、「女性器の私有」を放棄し、自らの女性器や、そこから出た排泄物とその排泄場所(トイレ)を「公有」や「掃除」や「懺悔奉仕」の主体や対象とみるようにな

る。だから、最初のうち表向きは、「やたらと平身低頭の態度に出てきて、トイレを掃除してくれる、おとなしすぎる宗教者たち」と映る。

一方、ヤマギシ会では、組織そのものの中に、男女の性生活を統御する結婚調整機関や生産部などのれっきとした専門部署が存在する。正式名称は別にあり、私たちも把握しているが、報告女性たち皆が俗称で「結婚調整期間」や「生産部」と呼んでいるので、本資料もこれに合わせる。(現・元) 会員女性たちが、性被害女性専用サイトやYahoo! JAPAN 知恵袋などで強制結婚や性労働について回答する際にも、やはり正式な部署名を隠して「生産部」の通称を使用しており、ネット上ではこの名を用いるのが望ましいと考える。(「生産部」の存在が話題になったのは、2010~2012年に女性たちがこれらのサイトに体験を報告したためである。)

山岸巳代蔵が人種改良計画や優生思想を唱えていたこともあり、これらの機関はヤマギシ会内に純粋血統の後継者を多数産み出す事業も兼ねている。むろん、結婚させられた男女に与えられる寢室(生産場所)、支給されるベッド、布団、下着、アダルトグッズなどは公有財産である。

まずほとんどの男女については、結婚調整機関で男女のペアが決められ、結婚することとなるが、優良な子を産まなかったと判定された一部の夫婦は引き離される。生産部女性によれば、スワッピング(夫婦交換)の慣習の報告があるが、正確にはほとんどの場合、女性(妻)のほうだけが、生産部など特別部署に配属される前段階から、様々な異なる男性と性行為を行っている不均衡な関係にすぎない。この段階で、性器や体がボロボロになって廃人のようになっていたり、命からがら逃げ出したりした女性たちもいる。

そのような中、特に優秀な若い母親および若い女性たちは、「生産部」なる部署に初めて呼ばれて、多くの男性と性行為を行うこととなる。そこでもやはり、男女の人数は不均衡であり、少数の男性に多数の若年女性が入れ替わり対応する。ここは、ヤマギシ会の女性とて(もちろん、特に男性は)、一生知らないでいる場合も多い機密部署である。夫婦で参画しても自分の妻の状況さえ把握できないくらいだから、およそ会員男性の99%はこの特任女性たちの状況を何ら知らされていないのではないかと思える(特定の幹部男性・女性の利権や性癖のために)。私たちにご相談下さった先の女性は、この生産部で幹部・中級男性や農作業従事男性らへの性的サービスや子の生産を担った特任の女性というわけである。

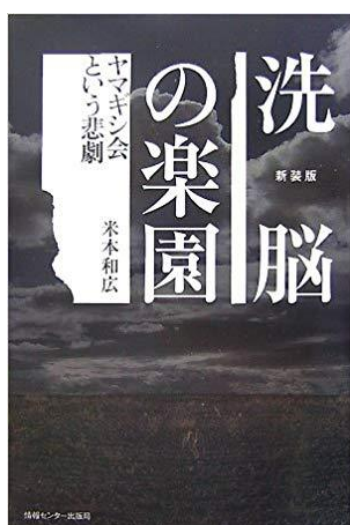
ちなみに、一部の女性の報告内容には正しくないところがあると考える。ここでいう生産部は、主たる「農作物」の生産のついでに子の生産をするところなのではなく、選ばれし女性たちが子の生産や性の喜びの生産をこそ行うところであり、いわば女性器公有の実験室なのである。女性たち本人の中に農作業と性労働の混在の意識があるということは、おそらく会側ないし同部署は、女性たち本人に対して、性被害の意識を生じさせないために、同部署でも農作物の生産を行っていると言って「生産」の語調を曖昧にしたり、性労働への従事について農作業への従事と同等の意識を持つようにと教育している可能性がある。しかし、農作物の生産部門は、もちろん全く別の名で呼ばれており、

いくらでもウェブサイトで紹介されている。

生産部の男女の年齢は、男性のほうは若い者から老年（「老蘇」）の者までいるのに対し、女性のほうは若い者が好まれ、選ばれし女性たちが10代のうちに生産部で多数の男性会員と性行為を行うのである。

このほか、ヤマギシ会については、多くの暴露本が出版されている。研究者による著書に限らず、内部の人間であった人、脱会者によるものも多々ある。ぜひ一読されたい。

今後も私たちのもとには、ヤマギシ会の女性たちとその脱会者の女性たちが性の相談に訪れるだろう。女性の公有思想に染まり、ヤマギシ会を出てからもAV女優や風俗嬢となつた女性たちからのご相談も多い。ご相談には毎回、真摯に向き合いたいと考えている。



《ヤマギシ会の実状を暴いた本の数々》

4. 一般財団法人 懺悔奉仕光泉林（通称：「一燈園」）の女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1 (一燈園の女性)

「私は京都にある一燈園中学校、一燈園高校という学校を卒業しました。当時から違和感は何となくあったのですが、違和感を持っている友達のほうが少数だったので、気にしないようにしていました。親からも、ここは宗教ではないよ、と言われていましたが、社会に出た今、外からはこの団体は宗教と言われてもおかしくないと感じています。人間の排泄に関する価値観が異様で、女性の排泄に対しても遠慮・配慮というものがまったくありません。トイレ掃除の修行もあり、知らない人(男性含む)の家に上がり込んで素手で掃除したり、公衆トイレ(男女両方)に素足で入って素手で掃除していました。」

(イ) 女性からのご相談事例 2 (一燈園の女性)

「私は一燈園の脱会者です。私はこの団体で、女性の性の恥ずかしさ、例えば、女性の排泄物の話をするときや用を足すときに女性なら自然に感じてしまう恥ずかしさが、食べ物を人前で食べることにように、本当は恥ずかしくないはずだといった雰囲気がとても嫌でした。人の家へ上がってお手洗いを素手で掃除する修行があるのですが、この団体の男性は、女性の家に上がり込むときに、女性のほうが恥ずかしがるのがおかしいというようなマインドコントロールをしてから上がり込んでいました。」

(ウ) 女性からのご相談事例 3 (一燈園の女性)

「幹部の命令で、見ず知らずの男性宅へ上がり込んでトイレ掃除をしなければならないのが嫌で仕方がないです。また、幹部からの公式な指示はないですが、幹部個人やそのお宅の男性から頼まれて、無給で性のお手伝いをすることもあります。実は、性のお手伝いが無給というよりは、この一燈園という団体そのものに、自分の財産を預けているので、生活や人生が無給なのです。ある幹部によると、中国的な共産主義を目指しているそうです。そのせいで、男性恐怖になりレズビアンになりました。ただ、この団体が嫌いかどうかは自分でもわかっていません。女性が多数出演する素人系の AV に出る仕事をしながら、いろんなトイレ掃除をしていますが、女子トイレばかりを素手で掃除して性的な満足を味わいたいの、性的な意味でのわたしの本音です。自分は今、女性器の懺悔ということを考えており、おひかりの恩恵のためと思い頑張っています。」

(工) 女性からのご相談事例 4 (一燈園の周辺地域の女性)

「いきなり見ず知らずの男たちが、“おトイレを掃除させて下さい”と言って上がり込んで、断り切れず、サニタリーボックスまで開けて掃除されたことがあります、それ以来自宅
で用を足せなくなって医者にかかったところ、PTSDと診断されました。思えば、“女性の
独り暮らしなので、迷惑です。お引き取り下さい”とお伝えしたのがいけなかったようで、
逆に女性の独り暮らしという事実を握られてしまい家に上げられたのだと思います。あと
で友人や同僚に聞くと、一燈園という怪しい宗教なのに、どうして家に上げたのかと死ぬ
ほど叱られました。」

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 一燈園との奇妙な縁

京都山科にある一燈園についての私たちの潜入調査期間は長い。

随分前から一燈園の存在は知っていたが、ある時期、私たちは突然、仕事で一燈園に関
わることになった。正しくは、最高代表の上司が、一燈園がいかなる集団であるかを元々
知らず、その上全く勉強しようともせず、「人類の理想郷の試みとしては、かなり高く評価
できる団体だ」といった評価を与えて、一緒に仕事をしたいと一燈園に秋波を送ったので
ある。特に理事長などは、東大法学部を出ていても、「自宅に幸福の科学のイベントの案内
が来たんだが、行く意味があるかないか、君はどう思う？」などと50歳以上も年下の部下
である最高代表と私たちにアドバイスを求めるような、宗教分野に関しては驚くほど無知
蒙昧の人間である。厳しく言うようだが、学歴があって教養がないとはこのことであると
感じたものである。

さて、いつもいつもご丁寧に上司陣の書簡を代筆している最高代表と私たちは、その秋
波を送る手立てである書簡を、無理矢理書かされることとなった。とは言っても、無理矢
理書かされるふりをして、実際は一燈園の現状に潜入するよい機会を徐々に得たものだ
と喜び、密かに楽しみながら書いたのである。

というのも、最高代表と私たちは長年、一燈園に所属する同人女性たち（一燈園ではメ
ンバーを「同人」と呼ぶ）からも性生活の悩みの相談を受けてきたのである。一燈園の裏
事情など、一通りのことは知っていたのである。より正しくは、性生活というよりも、む
しろ排泄行動や清掃活動の悩み相談と言ったほうがよい。

そして、最高代表も私たちも、仕事で一燈園に関わるようになってからは、堂々と潜入
調査ができるようになった。今、この仕事で何人かの大学教授たちが奮闘しているが、「一
燈園の幹部や大学教員たちとは、どうもうまくコミュニケーションが成り立たず、ほとほ
と困っている。いったいどういう団体なんだ、あれは」などと愚痴をこぼしているのが、

なかなか笑えてしまうが、悲しくも思う。日本の恐るべき思想集団・新宗教の情勢を勉強していない学歴秀才の顛末がこれかと、日本の将来を憂慮してしまう。

しかし、一燈園の幹部である思想家や大学教授たちが受け取っているその封書は、最高代表や私たちが（女性たちからのご相談や情報を参考にさせていただきながら）戦略を練って差し出したものなのだから、それはそれで、実に面白いことになってきたというわけだ。

(イ) 「お宅のトイレを掃除させて下さい」

まず、あえて書くが、一燈園は、人類の理想郷を目指して一般国民社会とは異なる社会・経済システムを敷く日本の思想集団の中でも、問題をほとんど起こしたことがない団体である。ヤマギシ会やラエリアンがカルト宗教と呼ばれているのとは大きな違いである。このことは、一燈園が小規模団体で目立ちにくいからという理由はあるにせよ、何よりもまず評価に値する。

しかしながら、私たちの元に寄せられる女性たちからの相談とは、前述のようなことである。また、一燈園の周辺地域（京都、奈良、滋賀、大阪、福井、岐阜など）の女性たちからの迷惑相談とは、前述のようなことである。

一燈園は宗教法人ではない。法人格は一般財団法人であり、「懺悔奉仕光泉林」を名乗っている。明治末期に西田天香が設立した共同生活集団である。西田は「国民総懺悔」と掲げて参院選に立候補、当選している。ダスキンなど、創始者が同人である企業やその他関連企業も存在する。トルストイなど海外のユートピア思想とも関連が深いほか、倉田百三ら著名作家も園で修行したのである。

集団内では、個々人の思想・宗教の自由は認められているが、しかし、俗に宗教団体と呼んでいる人々がいるのは、この集団に一般良識とは異なる異様な思想が見られるからであって、そう呼ぶ側の不勉強でも何でもない。

一燈園は、私有財産を否定しており（無所有の懺悔奉仕）、同人による農業、建築、清掃などの全ての労働は無給であり、生活費は「おひかり」の恩恵として懺悔奉仕光泉林から支給される原始共産主義団体である。この点では、ヤマギシ会と何ら変わらず、むしろヤマギシ会よりも急進的な一面も見られる。

最も特徴的な、かつよく知られた一燈園の活動は、周辺地域住民の家や公共施設のトイレ掃除である。掃除道具は持ってはいるが、こびりついた便などは素手（指や爪）で取り除く。公共施設のトイレでは、通常土足で入るところを、素足で掃除する。昨今の時代の流れから、個人宅に上がり込んでトイレ掃除をさせてもらえる件数は大幅に減っていることが私たちのウォッチャー調査で観察できたが、それでも周辺地域の若い女性たちからは「気持ち悪い団体」との声が聞かれる。

西田天香『懺悔の生活』を呼んでみたが、哲学書や仏教書を渉猟してきた私たちからす

れば、全く心が動く書物ではなかった。これを読むくらいなら、原始仏教経典を読んで時を過ごすことをお勧めする。「一燈園生活にふれたる二種の女性」の項も、スタッフ女性たちは異口同音に、「女性の本質の何をも語ってはいない」と述べた。

(ウ) 一燈園の懺悔 (一燈園小学校・中学校・高等学校の教育) と女性器の懺悔

この「懺悔」という思想は、とりわけ現代女性の性の問題と重なったときに、恐ろしいマインドコントロールパワーを発揮する。

ヤマギシ会では、女性の生産活動(性生活)は、女性器の公有に基づく原始生産ではあるが、「懺悔」と「奉仕」ではない。また、排泄に関する言及は少ない。

一方、一燈園と燈影学園(一燈園小学校・中学校・高等学校)では、女性器や女性の尿道・肛門(というケガレ)はそもそも懺悔の主体である。だから、創始者や幹部たちが直接マインドコントロールの手法を用いずとも、同人女性たちが自ら「女性器懺悔」の思



いを強くするようになる。女性器保有者であること自体を卑下し、自らすでに汚れた人間存在として、周辺地域や日本中のトイレを至極丁寧に素手で掃除して回る。それが、前述の「おひかり」のための女性器の懺悔という女性たちの自覚に表れているのである。

《一燈園小学校・中学校・高等学校》

換言すると、一燈園は「懺悔思想」を持つがために、幹部が女性をマインドコントロールせずとも、メンバー女性たち自らが「私の女性器や尿道・肛門は懺悔すべきケガレの存在」として、「女性器や尿道・肛門の私有」を放棄し、自らの女性器・尿道・肛門や、そこから出た排泄物とその排泄場所(トイレ)を「公有」や「掃除」や「懺悔奉仕」の本体、直接的な懺悔主体や懺悔道場とみるようになる。

だから、一燈園の同人男性たちが、いきなり見ず知らずの女性の家に押しかけてトイレ掃除をしたがるのは、全ての私宅の便所を公衆便所であり、全ての女性の性器や肛門を「公有物」や「公衆便所」、今の言葉で言えば「肉便器」と考えているからだと見る事が可能である。また、一燈園の同人女性たちが見ず知らずの男性のトイレを掃除したがるのも、

自らの女性器を公有と見て男性に懺悔奉仕しているからであると解釈できる。

私宅のトイレの汚れと公衆便所の汚れの扱いに全く差がないというのが、一燈園の女性たちの際だった特徴であり、強硬な主張である。それは、一燈園の内部を知らない住民から見れば、圧倒的な善意に見える。だが、他人の排泄物よりも自分の排泄物のほうにこそ抵抗が少ないというのが、性的興味以前に、衛生・安全上・医学上の常識として、近現代人の当然の心理であるはずである。アマゾンやアフリカの先住民にさえ、この心理はごく普通に確認される。

一燈園の女性たちには、この心理は通用しない。絶対的に否定されるのである。一燈園高校の女子生徒の中には、「世の男性の皆様、私たちは女性器や排泄が恥ずかしい、などと間違っただけの考えを今まで持ってきて、ごめんなさい。その間違っただけの考えのほうが、世の中を汚していたのです」と泣きながら語った生徒もいる。

(エ) 女性の排泄・トイレと「恥」の心

今現在、私たちの元には、幼少期から一燈園あるいは一燈園中学校・高校で過ごし、のちに素人 AV 女優や風俗嬢となった女性たちが多々訪れる。彼女たちに「女性器は懺悔しなければならぬ」という観念が見られるのは、一燈園がただの財団組織ではなく、聖なる世界と性なる世界とを「知らない人の家の便器や排泄物を素手でさわる」という独特な形で結びつける宗教組織としての側面があることを物語っているだろう。

一燈園本体は、同人女性に対して「性を解放しなさい。恥を捨てなさい」とは確かに命じていない。再度書くが、一燈園は、新聞沙汰になるような問題をほとんど起こしたことがない、比較的健全とされている共産主義・集団生活コミュニティである。しかし事実として、一燈園中学校・高校の卒業女性の中には、今でもアダルトビデオの中やホテルでいとも簡単に足を開いたり、糞尿を見せたりして、「こんな機会を与えてくれてありがとう」と泣きながら述べている女性たちの層が、存在しているのであって、このことを無視するわけにはいかない。

ちなみに、一燈園の女性たちの価値観は、別に論じた「うんこブーム」を形作っている世の女性たちの価値観に似ている。ブームの火付け役となった「うんこ漢字ドリル」の担当編集者の谷綾子をはじめ、うんこ演算、うんこグミ、うんこ展（池袋パルコで開催された）など、女性による「うんこブーム」は、いっそう巨大な一燈園と言ってよいだろう。

(ここの画像は要閲覧申込。)

《一燈園の女性、一燈園高校の女子生徒から私たちのもとに送られてきた彼女たちの出演 AV 数十本のうち、パッケージ数例。セリフには、一燈園独特の用語も聞かれる。》

(オ) スカトロジーと一燈園の女性

このように、一燈園では、人間の排泄行為そのもの、トイレそのものが際だったテーマなのであり、スカトロロジー・イニシエーションの地上への具現が主目的だとも言えるのであるから、一燈園出身の AV 女優や風俗嬢にも、必然的にスカトロロジー系の女性が多くなっている。不特定多数の男性とセックスを繰り返す AV への出演を好むヤマギシ会の女性とは、かなり趣向が異なる。

彼女たちは、自ら一燈園やヤマギシ会出身であることを公表することはない。この点では、6 のスタジオの女優（妻）たちとは異なっている。しかし、とりわけ一燈園では、本来「浄」と「不浄」の二面性を持ち、神々も宿ると言われた便所という空間が、「懺悔奉仕」などという思想と不当に結びついたがために、日本の神道らしさが失われ、一部の女性たちには「女性器や肛門、排泄物を隠すことは間違っている」という観念が身についた。この点では、神道・仏教とスカトロロジーの儀式とを最初から混合させて AV を制作している 6 のスタジオのほうがさすがに面白い面もあるのである。

これらの女性に見られる神道系スカトロロジー・イニシエーションの趣向の違いについては、まだまだ書き足りない。

例えば、一燈園の女性たちのスカトロロジー AV 志向は、大きな哲学上の問題をも含む。つまり、元々スカトロロジー志向である女性が一燈園と親和性があるにすぎないのか、多くの女性はそもそも、一燈園のような団体に入って素手でトイレ掃除をしたり、排泄物を見たり触ったりする行動を繰り返していると洗脳ないしマインドコントロール効果によってスカトロロジー志向になるのか、といった問題である。今後こういった問題についても、徐々に追記していく予定である。

5. キリスト教福音宣教会 (Christian Gospel Mission、通称：「摂理」) の女性からのご相談

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1

「大学で友人おすすめの聖書の勉強会というところに行きました。ただ、なんとなく様子がおかしいと感じ、友人に相談したところ、友人もこの勉強会に救われたということで、しばらくは我慢して参加することにしました。あとでわかったことですが、わたしがあまりしっかりと拒否しなかったのが、名前や住所を友人に登録され、ある程度正式な会員となっていたようです。友人は、途中から聖書の話題というより、性の喜びといった話題を

出すようになりました。あとで、この勉強会を実施していた団体が摂理という宗教であることがわかりました。それ以来、この団体について調べてみると、女性の性被害の話題ばかりが出てきて、本当に不安です。今は脱退しましたが、脱退したことになっているのかどうかも正直わかりません。」

(イ) 女性からのご相談事例 2

「同じ大学のサークル活動で知り合った友達から聖書の勉強に誘われ、私もキリスト教系の女子中学・高校を出ていましたので、一度行ってみることにしました。会場では、今までに会ったことのないような（今思うと気持ち悪いくらいの）親切すぎる人たちが戯れていて、この雰囲気なら続けられるかと思って入会しました。その後、この団体が摂理という団体だとわかるのですが、その時は入会書のどこにも団体名はありませんでした。不安になり始めたのは、友達をはじめ多くの女性会員（実際は信者）たちが、最終的に鄭明析というこの団体の教祖と性行為することを目標としていることを知ってからです。不安になったのなら、すぐにやめればいいものを、私も妙な対抗心のようなものが芽ばえ、女性として、聖書の理解や、神と教祖との性的結びつきについて、ほかの女性に負けるわけにはいかないと感じるようになりました。その一方で、男性信者の方々とも性行為をしてきました。脱会した今も、脱会してよかったと思う自分と、当時の性的な結びつきの喜びと最終目標を思い出す自分との間で、苦しんでいます。」

(ウ) 女性からのご相談事例 3

「摂理という、人生を幸せにする団体に入ったのですが、これはわたしの落ち度で、そんな都合のいい団体があるはずがなく、だまされてしまいました。だまされたというのは、日本人の女性信者がすごく多いのですが、幹部男性とのセックスを行い、究極的には韓国人の教祖とのセックスを目的とする団体だったからです。その論理として、最近、日本人の女性信者たちは共感覚という概念を使い、五感をフルに混ぜ合わせることで、なぜ教祖とのセックスが必要かが感覚的に理解できるそうです。共感覚を使って教祖の教えを描くブログまで運営している女性信者もいます。なんとかごまかしながら、脱会のチャンスを狙っていますが、教祖とのセックスの練習のため、すでに何人もの男性信者とセックスしてしまったのを後悔してもしきれません。」

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 朝鮮半島系キリスト教団体の典型

キリスト教福音宣教会 (Christian Gospel Mission、日本における通称は「摂理」) は、鄭明析が韓国で設立したキリスト教系新宗教団体である。統一教会 (現：世界平和統一家庭連合) などと同じく、朝鮮系キリスト教団体の典型である。とりわけ日本支部の規模が大きく、日本では女性信者が多く、各大学で信者の女子学生らが団体名を隠して勧誘網を敷いている点でも、統一教会と同じである。元より、鄭明析自身が統一教会の教えや手法を参考にしているのである。摂理の全体の規模そのものは、統一教会よりは小さい。

異なる点は、統一教会が国際勝共連合などを通じて自民党とつながるなど、政治活動に関係している一方、摂理は政治活動に積極的でない点である。

性や結婚について何らかの問題を過去に引き起こしている点でも、両団体は似ているが、統一教会では合同結婚式の開催や性交についての細かな規律の遵守が大多数の男女のペアにおいて行われているのに対し、摂理では、教祖一人による女性信者への直接的なわいせつ行為・性的暴行が取り沙汰されたのである。これにより、教祖は実刑判決を受けている。

(イ) 女子学生による勧誘網

日本のキリスト教福音宣教会信者は、自らを「摂理人」と呼ぶ。これが通称「摂理」の由来である。女性たちからのご相談に見られる通り、日本では特に、大学において女子学生による女子学生への勧誘が広く行われている。この勧誘網は、私たちの調査ではラエリアン・ムーブメントの勧誘網に匹敵する規模である。

勧誘する女性信者は、教祖の性的暴行を暴行とはとらえておらず、神の愛の注入であって、これを嫌がった女子たちのほうが神と聖書を理解していないと信じている。最初は団体名を出さず、聖書の勉強と称して女子学生たちに近づき、次第に性の話題を出すようになる。ここで一度または数度勉強会に参加した女子学生のうち、一定程度の割合が入信することになる。その後、男性信者と性行為を行う者もいるが、多くの女性信者が最終的には教祖の寵愛を受けることを目標としている。

【参考】

摂理の彩り (摂理の女性信者。アスペルガー症候群を抱えるデザイナー。教祖鄭明析の教えを様々な共感覚を使って描くなどの活動を行う。)

<http://providence-color.xyz/>

6. この項、要閲覧申込

7. ラエリアン・ムーブメント (Raëlian movement)、クリトレイド (Clitoraid) の女

性たち

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1

「私は、アフリカのクリトリス切除（割礼）などの被害にあった女の子たちを救う運動に参加しており、あるときクリトレイドという団体に出会い、日本支部を訪れました。そこでは、クリトリスの再生を海外の病院で行っていると教えられましたが、何度か通っているうちに、私自身のクリトリス（もちろん、切除経験はありません）をもっと気持ちよくできる施術があると言われました。“再生”とは再生手術のことかと私は思っていたのですが、本来“再生”とは、ラエリアンの思想による、異星人エロヒムや女性の性的権利の開放（女の再生）という意味の“再生”だとか、それで女性はみな気持ちのよいクリトリス人生を得ている、などと意味不明なことを言われました。それで気持ち悪くて断ったので



すが、もとは大学を通じた慈善活動で抱いた夢（女の子たちを救いたい）だったのが、変なところに行きついてしまい、正式な大学の手続きとクリトレイドという謎の病院の区別も、私一人の力ではつかなくなって、不安になっています。アフリカの女兒の性器の再生は確かにやっているようですが、なぜか性器の美容や快感の開花のために日本人女性も多く渡航していました。この謎の病院（はっきり言って、変態病院ではないかと疑っています）について、もしご存知でしたら、ご返信をいただけないでしょうか？」

《クリトレイドの受付ブースでヌードの女性が出迎える様子》

(イ) 女性からのご相談事例 2

「私がある宗教に勧誘されて、イベントにまで行ってしまった経験を書きます。大学の友だちに誘われたのですが、途中からおかしいと気づいて、いつ逃げられるかと思っているうちに、ズルズルと数回行ってしまい、おかしいのかもわからなくなってきて、結果、



私自身が数人のほかの友だちを巻き込んでしまいました。その数人の友だちの一部が、私よりもずっと正確におかしいと気づいていて、そうでなければ私はそのまま入信していたかもしれません。

宗教はラエリアン・ムーブメントという団体です。私の大学は国際色豊かな女子大で、私もアメリカから来た友だちがいて、そのアメリカの友だちと同じ大学の日本の友だちに誘われました。団体名はあとから知ったことで、最初は団体名を教えられませんでした。ラエルという人が創設者で、宇宙からの壮大なメッセージを受け取って創設したということになっています。空飛ぶ円盤に乗っていた異星人エロヒムがラエルに、宇宙の真実を伝言したようです。

《ラエリアン・ムーブメントのイベントの例》

問題は、エロヒムはほかにも、女性が公共の場で脱いだりセックスしたりする権利を認めるよう伝言したらしいということです。これが女性たちに人気で、元々そうしたいと思っていた女性たちがこの宗教に入ったようです。地球人類はエロヒムによるDNAの化学合成でできたと言われ、そうやってできた女性の乳首や陰部も正直に使用していくことが宇宙の真理なのです。最初のうちは単に笑えるジョーク宗教と思い、冷やかしのつもりでイベントに参加しました。

そこでは、女子大生やお姉さんやおばちゃんたち（けっこう白人女子の割合が高い）が「トップレス権」を主張するイベントをしていて、胸を出したり、しまったり、今度は出したまま踊るなど、はたから見るとわけのわからない儀式をやってるのです。このイベントは、スイスやアメリカが本場です。公共の場で女性がトップレスになる権利を保障しろというデモを、ラエリアンの女子大生たちや一般の主婦などが起こしています。私が参加したのはその日本支部のもので、日本では野外のヌードはわいせつになるので、ビルの一室で行われることが多かったです。衣装の色や部屋の装飾は、とてつもなくまぶしいピンクです。といっても、乳首は丸出して、乳首やおっぱい全体にはピンク系や黄色系の装飾模様を書きまくっています。

ネットでは、ラエリアンはフリーセックス宗教だと書かれていますが、私自身や友だちはそういうフリーセックス自体したことなどないですし、イベントでそのようなものを見たこともないです。ただ、「エロヒムの言葉が私のニューロンを活性化させ、乳首や陰部にも響いて、スイッチが入ったので、セックスしてきます」みたいなことを言ってラエリアンの男性のもとに行ったり、別の部屋に行ったりする幹部の女性や女子大生はいたので、

そういうものはあったのだと思います。私を誘った友だちから聞くとところでは、私や友だちの乳首や陰部よりもその女性たちの乳首や陰部のほうがエロヒムメッセージに感動する能力が高く、セックスによる昇天（宇宙との一体化）ができるので、多くの男性と交わったり、道端で乳首を出す権利があるそうです。

で、ここまで書いてきて、今ではバカらしいとしか思えないのですが、そのときの私はなぜか「すばらしいセミナーだな」などと頭が固ってしまったのです。実際、自分ももっと高い性的ステージにのぼって、フリーセックス権やトップレス権を得たいとがむしゃらにトレーニングを積んでいるラエリアン女性たちは多くて、そういう権利は宇宙の真実だと言っています。私を誘った日本の友だちも、自分の乳首や陰部のDNAをエロヒムのコンピューターに伝送して、宇宙の真実を知り、もっと公共の場で開放的になりたい、などとがんばっています。」



《ラエリアンによるトップレス運動》

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 日本で拡大するニューエイジ宗教



ラエリアン・ムーブメントは、フランス人の弥勒菩薩ラエルことクロード・モーリス・マルセル・ヴォリロンによってスイスに設立された新宗教・ニューエイジ系団体である。宗教法人格は有していないが、現地・各国においても日本においても新宗教団体であると解されている。女性器再生施術病院であるクリトレイド (Clitoraid) も、この団体の一組織である。

《ラエリアン・マーク》

ラエリアン・ムーブメントは世界中に支部を持つが、欧米の支部では総じて団体メンバーの増加は横ばいである一方、日本支部（日本ラエリアン・ムーブメント）のメンバーは増加しており、運営も極めて安定的で、今では世界最大の支部となっている。同時に、それだけ様々な性観念を持つ女性たちが所属している。女子大生など若い女性の場合、多く

が単身や友人どうしでの参加であるが、日本では、一家・親族ぐるみでラエリアンに所属し、ラエリアンの中で育ったという女性が多いのが特徴である。

ラエリアンの女性たちや脱会女性たちからのご相談は私たちのもとに定期的に来るが、女性の性をめぐる相談では、前掲のようなご相談内容が極めて多い。女性たちの指摘の通り、この団体の女性たちには、この新宗教から洗脳やマインドコントロールを受けて公共の場で裸になりたいという考えに陥った女性よりも、元から女性の性の解放思想や、不特定多数とのセックスへの興味や経験を持っていたがために、この新宗教に入ったという女性が多いように感じる。私たちのもとにいるウォッチャー女性たちも、同様の指摘をしている。AV女優や風俗嬢のラエリアンメンバーが多いことも、そのことを物語る。

（イ）有名理系女子大生らによる勧誘

私たちがラエリアン関連で優先的に対応しているご相談としては、ラエリアンのイベントにおいて、無理矢理に脱衣やセックスを強要された女子大生からのご相談などだが、実際にはこのような女性はほとんどおらず、トップレス行進やフリーセックス大会、女性器情報のエロヒム・コンピューターへのトランスミッション（伝送）などのイベントに参加する時点で、筋金入りのラエリアン女性になっていることが多く、厳密には、信教の自由があるのみであって、性被害とは言えない。

但し、いくつかの有名女子大学には、ラエリアンへの勧誘を行っている団体の末端の女子メンバーたち（当該大学の学生たち）がいるので、注意されたい。SF小説の好きな文学系の女子学生のみならず、理学や地球科学、宇宙工学などを学ぶ理系の女子学生までもが、ラエリアンやクリトレイドのメンバーとなって、自らの大学で勧誘網を敷いている。一部の女子学生や主婦のラエリアンメンバーの集会では、フェラチオ講座が行われたり（不特定多数のラエリアン男性の陰茎を啜る）、男根を模した神輿などで有名な金山神社の「かなまら祭」に参加したり、宇宙との交信を目指すオナニー訓練を行ったりなど、極めて奔放な活動を展開している。



《かなまら祭の様子。ラエリアン女性からのご提供》

勧誘方法にも色々あり、美容整形（クリトリスなど陰部の形を整えたり色をピンクにする施術）の専門施設を謳ったり、クリトリス切除に苦しむアフリカの女子だちを救う公益の基金を名乗ったりすることもある。

冒頭的女子学生は、大学での正規の国際的慈善活動を行っていたところ、それに目を付けたラエリアンの女子学生がキャンパス内で声をかけ、正規の手続きにラエリアン参加手続きを混入させ、当該学生を混同させる手口を使っていたことが分かった。当該学生には、クリトレイドはラエリアン・ムーブメントという新宗教団体が設立している病院組織であることを伝えておいた。また、クリトレイドは、確かに海外では慈善的なクリトリス再生手術も実施しているが、ラエリアンの日本支部が世界最大のラエリアン組織であり、ゆえにそれだけ様々な性観念を持つ女性たちが属すること、クリトレイドには女性の身体部位（乳首、クリトリス、ヴァギナなど）の解放やフリーセックス権、トップレス権を強硬に主張する女性たちが多くを論じた。

クリトレイドの様々な施術方法については、多くの医師が疑問視しているほか、「クリトリスを再生したことで、大きな快感が蘇った。異星人エロヒムからの DNA 快感情報は正しかったのだ」といった独特な宣伝方法も用いているため、クリトリス再生手術を受けたアフリカの女子たちに実際どの程度オーガズムが感じられているかは不明である。

また、クリトリス切除を受けたこともない日本女性がクリトレイドのオーガズム増進施術を受けても、科学的にはオーガズムには何の変化も起きないはずだが、ラエリアンの女性たちはオーガズムが増したと主張している。

私たちのもとには、AV 女優や風俗嬢としても活動するラエリアンの女性たちからのご相



談も来る。AV 女優や風俗嬢がいるのは、ヤマギシ会や一燈園と同じことだが、ラエリアンの場合、団体の SF 的性格からして（彼女たち自身はもちろん、自分たちの宇宙論を、フィクションではなくノンフィクションだとしている）、異星人とのセックスやコスプレ自慰パフォーマンスなど、極めて個性的な内容の性行為が多い。

《韓国のラエリアンのヌードパレード。日本支部は、法律上の問題で唯一ヌードパレードを実施していない支部だが、世界最大のラエリアン組織である。》

8. 類グループ (株式会社 類設計室、類広宣社、類塾、類農園、類地所) の女性たち

(1) 女性からのご相談事例

(類似のご相談、ご投稿、情報提供は多数あり、個別に対応しています。)

(ア) 女性からのご相談事例 1

「私は就活の時期、類グループという企業グループに応募し、面接を受けに行きました。最初のうちは他のどこよりも内部の人たちが気さくで、親切丁寧に対応して下さいだったので、一時期就職したのですが、なぜかそのうち怪しさを感じるようになり、退職しました。まだいて欲しいようなことを言われましたが、このグループと縁を切りたいと思っています。名前など個人情報も渡してしまったので、とても恐い思いをしています。このグループにいるときは、自分たちのグループ (共同体) が本当の幸福を日本と世界にもたらすと信じていました。ただ、セックスや女性の性についての私の考え方を責められたことで、悲しくなり、退職しました。」

(イ) 女性からのご相談事例 2

「類グループという団体はどういう団体なのでしょう？ 私ははっきり言って、もう関わらないようにしたいです。というのも、大学生のときに友達に誘われて参加したところ、共同体思想や新しい婚姻・男女の性のあり方などを諭され、気持ち悪くなって逃げ出しました。ただ、いまだにこの団体の女性たちから勧誘が来ています。私はそのとき、処女でしたが、一瞬でも、初めて抱かれる男性がこの類グループの男性だったらよいかと思ってしまった自分がいます。それを今では恥じているのですが、友達はこの団体の婚姻思想が宇宙一幸せな男女のあり方だと言っています。」

(ウ) 女性からのご相談事例 3

「女現研の最高代表の男性の方のブログが、るいネットという団体のブログに大量に転載されているのを見ました。よく読むと、思想がまったく違うと思うのですが、るいネットでは、思想が同じだとして、自分たちのグループが最高代表の方や外部からも褒められているかのように書いています。ただ、るいネットでは、結婚する男女のペアやその時々性の交相手は団体によって決められるのをルールとしていたり、自然な (原始的な、と彼らは主張する) 乱交パーティーもやっているようで、女現研さまや代表さまとは思想がまったく違います。るいネットというのは、何かの宗教団体のやっているサイトだと思うようになりました。一応報告させていただきます。」



《類グループの女性たち。被写体女性二名よりご提供》（るいネット）

(2) ウォッチャー調査報告

(ア) 「るいネット」の皮肉

私たちが類グループの存在を知ったのは、もう随分前のことである。どうして知ったかと言えば、情報をお寄せ下さった女性がお書きになっている通りで、この団体のサイト「るいネット」に、最高代表や私たちの著書やブログの文章がそっくりそのまま、著作者名（私たちの名）も引用元も明記せずに盗用されて、類グループの類似思想などとして掲載されていたからである。

現在は、著作権表示があるものもある。しかし、著作者・著作権者である最高代表や私たちの氏名および典拠が記載されている場合であっても、判例が示す引用の必要条件（明瞭区別性や主従関係）を満たしていないため、著作権法違反であることに変わりはない。

むろん、それは最高代表や私たちの書いた文章であり、最高代表や私たちの思想である。実際は似て非なるものである。だから、類グループの執筆陣の人間たちは、有名大卒や有名大学教授であるというのに、その能力を持ってしても、盗んだ最高代表や私たちの文章・思想を自分たちの体裁にどうやらうまく嵌め込めなかったらしく、不自然な宇宙論となっていて、申し訳ないが笑わせていただいた。あまりに文脈がおかしいので、削除依頼を出すことさえやめておいた。そうしたところ、他の女性スタッフたちも不自然な部分に気づいて、やはり「不自然だね」と笑っていた。こうして、類グループに対する私たちのウォッチャー活動は始まった。

(イ) 類グループが掲げる「性・婚姻・家族」

私たちとしては、本来ならば前述の女性たちのご相談を受けるまでもなく、この盗用被害の時点で取るに足らないグループだと断じてよいのだろうだが（共産主義的思想を掲げているので、著作権という概念自体をも無視するという革命的思想である可能性もある）、他の思想・宗教団体と同様、女性の性の相談を受けた以上は、この面についてきちんと書いておきたい。

類グループにおける性、性行為、性意識、結婚、家族といった概念に対する思想は、ヤマギシ会や一燈園とそれほど遠いわけではない。類グループでも、「総偶婚」といって、社員に対する強制的な結婚制度の設置が検討されたことがある。違いがあるとすれば、これら他の団体よりは唯物論的立場をとっていることである。生物学、生命科学、宇宙科学などに関する文献を多く出版していることから、そのことが伺える。

「るいネット」の「性・婚姻・家族」や「子育て・能力形成（家庭・学校・企業）」のページには、女性の性や母親の子育てについての文章が多々載っている。

ちなみに、私たちにご相談下さった類グループの女性たちや関係女性たちにも、素人 AV 女優や風俗嬢が多数いる。ヤマギシ会や一燈園、ラエリアンの女性たちと同じ状況である。とりわけ、類グループは原始共産主義思想である以上、「女性・女性器の公有」に行き当たるのであり、それが女性たち自身によって喜んで実践されている例として、ヤマギシ会や一燈園と似通っている。但し、一燈園のように、人間の排泄行為やトイレ清掃に偏って着目するようなスカトロロジー・イニシエーションの傾向は特に見られない。

参考文献

恵泉女学園大学平和文化研究所 『占領と性』 p.161-162

角田光代 『八日目の蝉』 中公文庫、2011

近藤衛 『ヤマギシ会見聞録』 行路社、2003年1月。ISBN 4-87534-729-4。

斎藤貴男 『カルト資本主義 オカルトが支配する日本の企業社会』 文藝春秋、1997年6月。ISBN 978-4-16-353040-6。

高田かや 『カルト村で生まれました。』 文藝春秋、2016

高田かや 『さよなら、カルト村。 思春期から村を出るまで』 文藝春秋、2017

武田修一 『ヤマギシ会の暗い日々 マインド・コントロールを超えて』 野草社 新泉社(発売)、1994年5月。ISBN 4-7877-9481-7。

米本和広 『洗脳の楽園 ヤマギシ会という悲劇』 洋泉社、1997年12月。ISBN 4-89691-295-0。

米本和広 『洗脳の楽園 ヤマギシ会という悲劇』 宝島社〈宝島社文庫〉、1999年9月、増補・改訂版。ISBN 4-7966-1574-1。 - 初版：洋泉社(1997年刊)。

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory, WRLRL、ウィルール)

米本和広 『洗脳の楽園 ヤマギシ会という悲劇』 情報センター出版局、2007年10月、新装版。ISBN 978-4-7958-4782-8。 - 増補・改訂版の出版者：宝島社(1999年刊)。

米本和広 『カルトの子 心を盗まれた家族』 文藝春秋、2000年12月。ISBN 4-16-356370-9。

米本和広 『カルトの子 心を盗まれた家族』 文藝春秋〈文春文庫〉、2004年2月。ISBN 4-16-765693-0。

『ヤマギシズム学園高等部——教えることのない学園』(ヤマギシズム学園高等部編、1989年11月)

『中等部生日記——競争なく自己最高』(堀芳彰、1990年11月)

『ヤマギシの村のコンピュータ開発——真の情報システムづくりをめざして』(ヤマギシズム情報システム開発所編、1992年11月)

『ヤマギシズム社会への参面の道——私はなぜこの生き方を選んだか』(ヤマギシ会文化科編、1994年8月)

ドキュメンタリー映画「アヒルの子」 監督：小野さやか、製作総指揮：原一男、2010

『懺悔の生活』(春秋社、1921年→、新版、1995年→新装版、1999年)

『懺悔の生活』(回光社、1932年)

『西田天香選集』巻1(春秋社、1967年)

『一燈園 西田天香の生涯』(三浦隆夫著、春秋社、1999年)

Bates, Gary, Alien Intrusion: UFOs and the Evolution Connection New Leaf Press, 2005. ISBN 0-89051-435-6.

Genta, Giancarlo, Lonely Minds in the Universe: The Search for Extraterrestrial Intelligence. Springer, 2007. ISBN 978-0-387-33925-2.

Ra ël, Intelligent Design. Nova Distribution, 2005. ISBN 978-2-940252-22-0

Ra ël, Yes to Human Cloning: Immortality Thanks to Science. Tagman Press, 2001. ISBN 1-903571-05-7; ISBN 1-903571-04-9.

るいネット

<http://www.rui.jp/>

類塾ネット

<http://juku.rui.jp/>